

土澤 悠貴 さん
(牧町)

○プロフィール
平成17年10月5日生
栃木県フェンシング国体強化選手に
選ばれた常盤中1年生



キラリ★
話題の「ひと」

フェンシングで、
夢はオリンピック選手

今年4月から中学1年生になったばかりの土澤君は、小学4年生から、それまでやってきた野球をやめ、高校時代に経験者だった両親にすすめられ、フェンシングを始めたそうです。「最初はチャンバラごっここの延長みたいで面白くて興味をもったところもあるようです。でもセンスがあつたんですかね?」とお母さんはおっしゃいます。

小学4年生の6月に始めて、その年の8月には、県大会の小学生の部で優勝し、そこから県内では負けなしだそうです。小学5年生で東日本大会に出場し、小学6年生の9月には全国大会で6位という成績を収めた結果、オーストラリアへの海外遠征選手にも選ばれ貴重な経験をしました。

現在、栃木市大平町のジュニアスポーツクラブに週2回通い、約20人の仲間と練習に励み、さらに土・日曜日には宇都宮の高校に出向き、高校生相手に練習を積んで

います。

中学生になって「練習も試合も面白い。もっと技も覚えたい。持ち味のスピードをアップさせるために脚力もつけたい」と意欲を燃やします。「教えればすぐ吸収するから教えがいがある」とお父さんも期待しています。

最後に、今年、栃木県国体強化選手に選出された土澤君は「たくさん経験を積んで、いつかはオリンピック選手になりたい」としっかりとした目標を話してくれました。

(市民記者 山崎ちか子)

第3回全国小学生フェンシング選手権大会で活躍する土澤君



市長からの
メッセージ



まだまだ梅雨空が続いていますが、梅雨が明けると子どもたちが待ちに待った夏休みがやってきます。各町会では夏祭りなど、各催しの準備で忙しいことと思います。

さて、先月3日には、爽やかな快晴のもと佐野市消防操法大会が開催されました。今年は県大会開催の年であり、佐野市の代表をかけ、各分団の精鋭たちが全力で日頃の練習の成果を披露しました。結果、ポンプ自動車の部では第23分団、小型動力ポンプの部では第19分団が優勝し、今月28日に開催される県大会に出場します。代表の皆さんの県大会での活躍を期待しています。

また、先月の9日、10日には、運動公園陸上競技場外にて、関東高校ラグビー大会が開催され、関東各県代表の28チームが熱戦を繰り広げました。

開催地の本県からは、県予選で初優勝を飾った佐野日大高校が第一代表として出場し、春の全国大会を制した神奈川の桐蔭学園高校と茨城の茗溪学園高校と対戦しました。結果、全国常連校の壁を破ることはできませんでしたが、健闘した選手の姿は地元応援団の胸に深く刻まれました。4年後の「いちご一会とちぎ国体」では、本市がラグビー会場となります。その時には佐野市を挙げて大会を盛り上げていきましょう。

現在、佐野市が所有する施設の適正配置に向けた計画の説明会を市内各地区で実施しています。今後の人口減少や高齢化により税収の減少が見込まれる中、将来を担う次の世代に負担を残さぬよう、統廃合や複合化など各施設のあり方について、市民の皆さんと共に考えながら進めてまいりますので、ご理解、ご協力をお願いします。

岡部正英



「佐野学」市民講座 ～知られざる佐野ゆかりの偉人～



講演する田村さん



話に聞き入る
満員の会場

6月9日、佐野日本大学短期大学にて、第1回講座が開催されました。「佐野学」とは、市民のための市民による教養講座で、昨年開催時も好評を博しました。

今回は田村田さんを講師に、「孫から見た人間国宝・田村耕一の素顔」をテーマに講演が行われ、来場者は貴重な話に耳を傾けていました。

なお、「佐野学」は7月中にも2回の講演を予定しておりますので、ぜひご参加ください。日程やテーマなどの詳細は、広報さの6月号に掲載しております。

日本女性会議2019さの開催に向けて

5月12日、JWCさの(日本女性会議さの大会を成功させる会)が、さの大会実行委員長の宇都宮大学副学長・藤井佐知子さんを招き講演会を開催し、会場となった市役所1階市民活動スペースは、県内外から約100名の方々が参加し満席となりました。

藤井実行委員長は、政府の方針や社会の問題点を踏まえたうえでの佐野開催に向けた意気込みを分かりやすくお話しされました。講演後の質疑では、参加男性からの質問や市外参加者から「県内の市町村みんなで応援したい」との発言もあり、佐野開催に向けての期待の大きさを感じました。日本女性会議さの大会の開催まであと1年3カ月となり、JWCさの橋本代表は「開催に向けて一人でも多くの方々に興味を持っていただく活動を続けていきます。」とお話し下さいました。

(市民記者 永倉文子)



講演する藤井さん



発言する参加者

「あの子が、まさかあんなに速いとは思わなかったけど、実際に走っているのを見たら、マサカ速いんでびっくりしたよ」
特に気をつけた方言に「キガオケナイ」があります。このキガオケナイは、気をゆるすことができない、油断できないという意味です。佐野には、このキガオケナイと同じ音をもつ共通語「気が置けない」も使われています。これはキガオケナイとは正反対の意味をもっています。キガオケナイは、共通語が転じたもので、その時期は比較的新しく、明治の初期頃といわれています。

(市民記者 森下喜一)

佐野弁
ばんてい

誤解されやすい方言
セツナイとマサカとキガオケナイ

共通語と方言には、同じ音をもつ語がたくさんありますが、その中には意味が異なり誤解されやすいものがあります。例えば、共通語の「切ない」は、心中でつらく思っていることを晴らしたいという気持ちや、悲しくて胸がしめつけられそうだという気持ちを表すことばです。これに対して、方言のセツナイは、やるせないとか、金銭や物資がなく乏しいといった意味です。訛(なま)って、セツネーという人もたくさんいます。

「昔は、あの人は、はぶりがよかったけど、あんなに繁盛(はんじょう)していた商店がチャブレチャッタ(倒産した)んで、今ジャー、ひっそりとセツネー暮らしをしますよ」

また、共通語の「まさか」は、下に打消しの語を伴って、「まさか来なカンベー」などといいます。だが、方言のマサカは、はなはだ、非常に」という意味で、下に打消しの語を伴うことなく、強めてマッサカともいいます。

今回の表紙 「あきやま有機農村未来塾による田植え」平成30年6月3日撮影